

## 「症例報告」投稿ガイドライン

1. 症例は動的治療終了後2年以上経過し、初診時、動的治療終了時、最終資料採得時の資料を有するものとする。
2. 症例報告の雑誌掲載に対する患者の同意書を添付すること。
3. 雑誌掲載時の刷り上がりで4～5ページ程度とすること。
4. 以下の項目について記載されていること。
  - 1) **タイトル**：報告の内容を的確に表していること。  
氏名：共著者は3名以内とする。  
所属：
  - 2) 「**和文要旨**」(200字程度)、「**英文要旨 Abstract**」(100語程度)  
英文要旨 Abstract はネイティブチェックを受けること。  
キーワード (Key words) は3～5個とする。
  - 3) 「**はじめに**」(400字以内)  
症例選択の理由を記す。
  - 4) 「**症例概要**」(5) と合わせ 400～500字)  
主訴、特徴的所見を記す。特徴的所見の記載に際しては、顔面所見・口腔内所見（前歯部咬合関係、臼歯部咬合関係、歯列と個々の歯の状態、その他）・模型所見・X線所見の順に記す。
  - 5) 「**診断・治療目標・治療計画**」  
「**症例概要**」から抽出される症例の特徴、問題点をまとめ、診断・治療目標・治療計画を記す。
  - 6) 「**治療経過**（動的治療期間 年 か月・保定期間 年 か月）」(300～400字)  
治療目標に対応した治療経過を記す。
  - 7) 「**結果・考察**」(500～800字)  
治療目標をふまえて治療結果・考察を記す。
  - 8) 「**文献**」  
8編以内とし、本文中の引用文献に呼び出し番号を付ける。
  - 9) 「**図表**」  
以下の図表についての案内は本症例報告の minimum requirement（最低限必要数）である。症例によって特に必要を認める場合は追加する。各図表については簡単な説明を加える。
    - (1) 顔面写真

初診時	動的治療終了時	最終資料採得時
正貌	正貌	正貌
側貌	側貌	側貌

(2) 口腔内写真（口腔内写真を原則とする）

初 診 時	動的治療終了時	最終資料採得時
正 面	正 面	正 面
左側面	左側面	左側面
右側面	右側面	右側面
上顎咬合面	上顎咬合面	上顎咬合面
下顎咬合面	下顎咬合面	下顎咬合面

(3) パノラマX線写真

初 診 時
動的治療終了時
最終資料採得時

(4) 頭部X線規格写真 (cephalogram) 重ね合わせ

全体 重ね合わせ	上顎 重ね合わせ
	下顎 重ね合わせ

側面セファログラムトレースは、下記の指定色を使用する。

- |   |  |
|---|--|
| <p>① 第1期治療から開始した場合 (早期矯正治療)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1期治療開始時 (黒)</li> <li>・ 第1期治療終了時 (橙)</li> <li>・ 第2期治療開始時 (青)</li> <li>・ 第2期治療終了時 (赤)</li> <li>・ 保定中または保定後 (緑)</li> </ul> | <p>② 本格治療から開始した場合 (本格矯正治療)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本格治療開始時 (黒)</li> <li>・ 動的治療終了時 (赤)</li> <li>・ 保定中または保定後 (緑)</li> </ul> |
|---|--|

(5) 頭部X線規格写真分析 (表) : Eラインより突出したものを+とする。この他に症例の説明のために必要な項目があれば追加する。

計測項目	初 診 時 ( 歳 か月)	動的治療終了時 ( 歳 か月)	最終資料採得時 ( 歳 か月)
SNA			
SNB			
ANB			
FMA			
IMPA			
FMIA			
U1-SN			
E-Line : Upper			
E-Line : Lower			